

28 de Diciembre de 1937

"El Argentino Dijo" Año XIV No. 774 (4)

親駕車臨

戰時下の第七十三通常議会

開院式舉行さる

聖慮畏し優渥ある勅語奉

(東京廿六日) 戰時休制下に召集され乍七十三通

常議会開院式は二十六日午前貴族院で舉行され、畏くも天皇陛下より我が作戦將兵の戰勝と餘後臣民の協力を御嘉賞遊はされり優渥ある勅語奉賜はり議員皆感涙は咽ひ愈々一死報讐の赤誠を誓つた。この日衆議院では開院式終了後本会議主席の勅語奉答文を可決した後上奏案(南京陷落奉祝に関する賀表)を万場一致可決して散会した。

聖慮に應へ奉りん 赤誠の念議場に溢る

場に溢れ、議員の面上には賛同一致

(東京廿六日) 戰時下には玉音と御朗かに三通常議会に聖慮畏し優渥ある勅語賜はり謀

勅語奉答文

衆議院の

勅語奉答文

テナ藤原義江氏

テナ藤原義江氏
けさ智利に向けサヨナラ
南米歌行脚のイク一番は文化
の都南米の巴里を持つ英國同
様して去る九月廿六日未明一
た我等がテナ・藤原義江氏は
尔来約三ヶ月、之の半を至國
國と伯國に過ごし独唱会を開
くここ數十回數万人の聽衆は
得意の歌を聴かせ、何れの獨
唱会に於ても大好評を博した
が、この先ケリ、ペリー等は
於ける独唱会の約束もあり旅
先直覺ぐことはあつたので、
去る廿六日午後九時四十五分
より金谷々館で信されたサヨ
ナラ独唱会と昨廿七日夜九時
昭和九年秋の帝展に初入選以
來二部会其他各方面に多款の
入選作品を毎年送りてゐる。
異色ある新進洋画家として知
られるる松尾敏一氏は、東
京帝大法学部長田中耕本郎博
士の從弟は当る人で、今度歐
洲への途次善つてバイオニアと
して邁したところである。南米各
國を航行脚すべく夫人啓子三
十六さん同伴去る八月グラジ
ルに到着、當地でも氏の縁は
各方商から絶讚を浴び殊に聖
アンに惜別し、予定の如く本
日、午前十一時、ティロ駕籠
約三百余名、アーチー、楊、ホイ夫人
等は、之にあつた、因に一昨日夜の
回会館に於ける独唱会は御開
幕路ナリに向けて出發する
が、この先ケリ、ペリー等は
ひ、アンコールで更に荒城の月」
を以て喝み締め午後十一時露金
程にはサヨナラ独唱会を終へた
強豪木力軍に
日軍惜敗
市美術学校長
及川萬字氏が
セシウ・オーリ
ヤ・トリーブナ
ア・トス市、第5
日本本人の
御内閣へれば幸甚と存じま
す。左に小説的お趣旨を御教
賜り度ゝ尚ほ外宣紙方面にエ
ドから放送のお別れの杜唱を
は亞蘭の音楽フ
後は在留同胞五
別れの杜唱を

南米が生んだ洋画家
・松尾敬一氏に就

サヨナラ 別れの独唱を畢後は在留同胞並闇の音楽アソシエスターに惜別し、予定の如く本日八日午前十一時モテノ駄馬鉄道ノリ一には向け出発する。時に五つた、因に一昨日夜の盛金館に於ける独唱会は賑やかで、アンコールも更に堀城の月約二百余名、アニー・楊ホイ夫人の伴奏と報紙のプログラムを終へた。

強豪亦力軍
日軍惜敗

サヨナラ
ドウガ放送の後は、別れの独唱を最後に在留間歌並の音楽奉呈にあつた。因に一晩日夜の会館に於ける独唱会は聴衆約二百余名、アニー・腸、ホイ夫人の伴奏で電報のブロングラムを唱へ、アンソールで更に「荒城の月」を以て喝采紹め午後十一時盛會終了した。

オルト・オース
歳度か伝へられた在
老年組に属する野球部
新進日音軍との対抗

對日青軍(何れも元第一師團)試合は予定の如く去後四時半より火力開始、八回まで木力軍、日軍を完全にリード。軍最後の勇猛振舞、獲得、結局善戦空し十九にて日軍惜敗。單メレバ、左の如き西村P、長沼C、白川有水38、沖田53、山本C、川村LF。

商船貨物の風景映
北亞で公園

の新春を待つて愈々実現
ることにあつた。

松尾敬一画伯も未要

商船うがら丸は明廿九日自前南同不明入港するが同船は既報の同胞の外去る八月うち浦田中たゞ大松尾敬一画伯が乗焉する。間次は十年前未だ市は滞在也。而ニとあり、今回も暫く当地に滞在の後ナーベル等を赴き、インガ国へ遺跡を訪ね繪筆の旅を続ける。ここに亘つてある由、森市龜山氏より連信があつた。

廣告

廣 告

在亞日

廣 告
来る一月一日午前八時より
在亞日本本人会講堂に於て
在亞日本小学校新年特質
式五舉行可致候向詣つて
御出席相成度候
昭和十二年十一月廿七日

